

814
5

享保撰要類集

三十一下

国立国会図書館所蔵
旧幕府引継書
享保撰要類集 三十一ノ下
生類之部 (請求記号814-5)

一 系洋信言 仰付成府同 系洋信
類人成 一 系

信記類集及信記の上

月

猶生年録也

附記

○此系信物也 系記類集に記す

石書付七九月 古酒井清波子啓

享保二年七月 古酒井清波子啓

系記類集 仰付成府同 系

(目次部分)

書局に於て公處方より近世の如く
云々の云々を能く其上を授け建てる
如く功徳ありと云ふものはおもひ
成るべきものなりと云ふは

甲子年

何年

漢中殿の如く云々公卿は法
より人より遠くお願ひなりと
博覧強記の如く云々

作の如く人より願ひなりと
云々

石象堂陽河の如く公卿は法
より人より遠くお願ひなりと
云々

乃少人輩、不致出太陽、而人爲之善、
彼之勝、乃人之教、人亦利、三三年、
し、日、月、科、而、人、善、家、後、仁、
光、之、之、法、人、人、善、善、人、後、仁、
又、人、利、人、人、人、人、人、人、人、人、
人、人、人、人、人、人、人、人、人、人、
人、人、人、人、人、人、人、人、人、人、

教、人、人、人、人、人、人、人、人、
人、人、人、人、人、人、人、人、人、人、

中七月一日

何人

文、人、人、人、人、人、人、人、人、

書、人、人、人、人、人、人、人、人、

人、人、人、人、人、人、人、人、

上附家也。東一。有之新。高福不。不。五。
 以。之。助。成。之。有。水。故。之。何。年。不。得。而。
 上。附。家。也。東。一。有。之。新。高。福。不。不。五。
 以。之。助。成。之。有。水。故。之。何。年。不。得。而。
 上。附。家。也。東。一。有。之。新。高。福。不。不。五。
 以。之。助。成。之。有。水。故。之。何。年。不。得。而。

外より石折りては、境のより、雲雨を
と境のより、入道なるは、海原も、
旅とて、いふ、樹木、いふ、極端、いふ、
た、境のより、流世、いふ、水、いふ、家、業、
いふ、方、能、いふ、いふ、いふ、いふ、

武家無源部中野村

序

予漢文無所不讀不似此所為漢文
方之從文亦非比予一之漢文也

申介

何年

元文七年十月廿三日年近正殿修志
收以新法以冊記之

象澤作此序於人元正時年七十
書於

何年

元文七年十月廿三日年近正殿修志
收以新法以冊記之
予漢文無所不讀不似此所為漢文
方之從文亦非比予一之漢文也
申介
何年

十七

象洞書紅額中上書付

寛

若王女書の必書本

武州多摩郡押立村

平書

日野小島乃為官本

田圃田郡中野村

源 助

藤吐院額

田圃田郡柏木村

示 主 儀

右之ノ者其額ハ中上書付 近年乃民也所收

あつた

右書文は後金所著板焼字に
依るが紙書廿一通あつた

右書文は後金所著板焼字に
依るが紙書廿一通あつた
今本より見ては良向書と云ふは
地を以てしては向書と云ふは一切自分

あつた

右書文は後金所著板焼字に
依るが紙書廿一通あつた
今本より見ては良向書と云ふは
地を以てしては向書と云ふは一切自分

三月

大岡越前守

稻生下野守

